

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は、パンフレットに記載されているほか、事務所内にも掲示している。	○	今後とも理念の徹底に努めていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念をパンフレットに記載しているほか、事業所内に掲示したり、申し送りのなかで話したりしている。	○	理念を覚えていても、時間が経過するにつれ記憶も薄らいでいくため、定期的に理念の確認をしていく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所面接時に必ず説明しているほか、面会時にも話している。	○	運営推進会議など利用し、認知症高齢者に対する理解を地域の方々にもしてもらい、認知症高齢者が安心して暮らせる地域社会を目指していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人と挨拶を交わしている。また、利用者との買物の際にも挨拶や、時には挨拶以外の話などしている。また、管理者が町会行事等に参加している。	○	近隣の方と園芸などを通じてより以上の交流をもてるよう努めたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議などで、地域の方々と情報交換をしているほか、夏祭りなどの施設の行事に参加していただいたりしている。また、野菜の苗木など提供してもらい、育て方などの助言を頂いている。	○	施設での大きな行事だけでなく、民生委員や高齢クラブなど中心に、グループホームの利用者と時間を過ごしてもらいたい。また、ボランティア活動を活かし、地元の人たちとの交流が出来ればと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで、主に健康管理上の注意事項など、その時期に応じた議題をあげ話をすることがある。	○	引き続き、運営推進会議を中心に取組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームのケアの質の向上のため、透明性の確保のため必要なものであると理解している。	○	独自のチェックシートを活用し、業務の見直し、理念等の確認を行っているとともに、現場の意見も幅広く聞き、サービス内容の検討をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、サービスの状況報告や運営報告を行っており、そこでの意見を参考にしている。	○	運営推進会議の中で出た意見等援助に取り入れていくとともに、施設を理解してもらええる場として活用したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスの担当課と連絡を密にし、情報の交換を行っている。	○	今後とも担当課と連携を密に取り、サービスのあり方、記録の様式など相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に地域権利擁護事業を利用している利用者もあり、関係者と話し合う機会がある。	○	現在行われている施設内外の人権研修に積極的な参加を継続していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時など、身体的な変化がないかチェックしており、注意している。	○	虐待についての認識をより理解できるように、研修等続けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○	面会時などの来園時に、サービス内容に確認や希望など話すように努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	利用者並びにその家族が気軽に苦情や希望等を言える雰囲気作りに努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○	家族の面会時などに利用者の状況について話している。また、利用者の生活状況を定期的に送り、利用者の生活ぶりを知ってもらいたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	家族が希望や苦情など何気なく言えるような環境や雰囲気作りに努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	年2回の職員自己評価シートの活用を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	併設施設の職員との交流に努め、柔軟かつ即応的な人員確保ができる体制が構築されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員は早く利用者と信頼関係が築けるよう、利用者と接する時間を多くとっている。また、事前に注意点や対応方法など話をしている。	○	職員のストレスを最低限に抑えることが出来るよう、職員間で援助方法や悩みの相談など出来るような雰囲気作りに努めたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。	○	施設内研修には必ず誰か研修を受けてもらい、伝達研修を行い、職員一人ひとりのスキルアップにつなげている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に出席して情報交換を図るほか、大阪府のグループホーム協議会にも参加しており、情報交換を行っている。	○	今までと同じように施設外での研修などを大切に、情報交換を行っていき援助に生かしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	申し送りなどで困っていることなどを話し、改善に向けての具体的な対応策など考慮していく努力はしている。	○	職員の交流会、レクリエーション、福利厚生に積極的に行っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修会など多く実施し、スキルアップに努めており、各個人が向上心を持てるよう働きかけている。	○	研修の機会は多く確保している。また、評価シートの活用、人事考課制度の導入も行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訴えがあるときには必ずその場で聞くようにして いるとともに、職員も利用者と一緒にフロアで過 ごしている機会があり、話を聞けるようにしてい る。また、入浴など1対1になれる場所で不安や不 満など聞くようにしている。	○ 常に利用者の視点、利用者の側にいることを心が けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っ ていること、不安なこと、求めていること 等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努 力をしている	入所時に家族と話をしているほか、面会時などに 希望等聞くようにしている。	○ 外部評価での利用者や家族のアンケート結果を出 来れば活用したい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その 時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の環境や性格に応じてサービスの選択肢を 提示して相談したりしている。	○ 暮らしの状況を把握し、まずは希望と課題克服の プラン提示作成に努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用する ために、サービスをいきなり開始するのではなく、 職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう 家族等と相談しながら工夫している	本人の生活歴や性格など事前に知っておくほか、 入所の最初の段階ではなるべく職員が身近に いるようにし、様子を見ながらサービスの提供に 努めている。	○ 体験入所制度の活用を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中で職員と利用者が一緒に過ごせる 時間を設けている。また、利用者が出来ることを 一緒にに行い、同じ時間を共有している。	○ 職員がなるべく利用者の身近な存在として、日々 の暮らしの中で話す時間、レクリエーションなど を増やし一緒に過ごす時間を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族背景も考慮しながら、面会時などに必ず職員と話す機会を設けて、現状説明や対応方法など一緒に考えている。	○	家族の精神面でのケアも視野に入れて支援していくとともに家族の考えにも共感しながら援助に生かしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時などに必ず職員と話す機会を設けて、現状説明や対応方法など一緒に考えている。	○	今までどおり、家族との連携を大切にし、利用者の現状が家族に理解してもらえるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力を求める声掛けを入所時に行っている。また、回想法など取り入れたコミュニケーションを行い、援助に生かすようにしていると同時に、テレビや写真など馴染みの場所があると一緒に見て話をしている。	○	家族に出来る限り面会機会等を増やしてもらうよう協力依頼している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格や認知症の程度、身体的なレベルなどの把握に努め、利用者の輪に職員も入り利用者同士が円滑に行動できるよう努めている。	○	利用者同士が協力し合える雰囲気作りを心がけていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時にグループホームに関する相談だけではなく、福祉全般の相談はいつでも受けることを伝えとともに、いつでも遊びに来てくれるよう伝えている。	○	家族等が気軽に来園してもらえるような雰囲気作りと職員とのコミュニケーションの調和に努力している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員とともに過ごす時間の中で、利用者の希望や悩みを聞くように努めている。	○	利用者と話をする時間を今まで以上に増やしていき、本人の考えや意向など聞く時間を増やし、利用者の視点に立った援助をしていきたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人に聞くほか、家族にも情報提供してもらっている。また、職員同士情報を共有できるようにしている。	○	サービス計画書の暮らしの状況をスタッフ全員が確認し、認識を共有できるよう努めている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの性格や認知症の程度、身体的なレベルなどの把握に努め、日常生活の中で出来ることを把握し援助に生かしている。	○	サービス計画書の暮らしの状況をスタッフ全員が確認し、認識を共有できるよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の希望を踏まえ、カンファレンスを行い、本人が安心して、いきいきと生活が出来るよう計画を作成するよう努めている。	○	本人の現在の状況に応じた役割をもっと考えていくとともに、個別の趣味活動など計画の中に取り入れていきたい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しを行っているほか、細かいことに関しては申し送り等の際に話し合っている。また、急激な変化が生じた場合は、家族と相談し、一緒に今後の計画について話をしている。	○	現状の専門職が関わったミーティングを継続していけるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化や状態などケースに記録するようにしている。また、連絡帳などを活用し、各利用者の変化の把握に努め介護計画に生かしている。	○	気づきや変化など、記録していき、計画に活かしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じ、対応できる体制がある。	○	併設施設の機能も活用した支援体制を継続するとともにより一層の強化に努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア活動を活かしているほか、民生委員に家庭農園の助言などをもらっている。	○	地域とのかかわりやよい協力体制を継続していけるよう努力する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要性に応じ、他の事業所との連携を取り、話し合える体制はある。	○	様々な機関等との連携を、交流などを通して広げていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性に応じ、地域包括センターとの連携をとれる体制がある。	○	併設施設に地域包括支援センターがある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医療機関を伝えるほか、希望医療機関を聞くようにしている。また、医師や協力病院などの協力を得ている。また、内科、精神科の医師の診察を決った曜日に受けることができる。	○	定期的な専門医と家族、職員で面談を行い、病状説明や今後の方向性など話し合う機会を作りたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週1回、協力医療機関の精神科の医師に診察を受けているとともに、職員も相談できる。	○	緊急時の受診や相談を受ける体制の構築に努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師がいつでもこれる体制があると同時に、いつでも相談でき、日常の健康管理など実施してもらっている。また、24時間体制で看護師と連絡がとれる体制がある。	○	看護師と相談しながら職員の知識を深めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は、病院の地域医療の職員と連携をとっている。	○	今後とも地域医療の職員との連携を高めていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じ、家族と今後のことを相談しながらサービスの提供を行っているほか、主治医との面談も行っている。	○	利用者の医療的ニーズが増えてきているため、医療連携体制の強化に努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の個々のレベルの把握に努め、グループホーム職員、医師、家族との面談を行う機会を作り、今後のサービスのあり方について話をできる体制がある。	○	重度化、終末ケアについて事業所として対応について、ある一定の方向性を確立している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時に馴染みのものを持ってきてもらえるよう家族に伝えるなど、環境の変化に早く順応できるよう努めている。また、退居する際は家族と相談しながら移り住む場所の情報提供を行っている。	○	体験入所、私物の持込に積極的に取り組んでいる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に個人情報の取り扱いについて説明しており、職員一人ひとりがしっかり理解し気をつけている。また、利用者の自尊心を傷つけることのないよう、一人ひとりの対応や声掛けを変え、声を掛ける際は声のトーンや周りの環境など考慮して行っている。	○	利用者の支援経過記録の保管場所に鍵をつけ、今まで以上に個人情報の取り扱いに注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとり声掛けに配慮しているほか、職員の意見を利用者に通すのではなく、利用者を選択権のあるような声掛けをするよう心がけている。また、利用者、職員ともが納得して活動が出来るよう話し合っている。	○	集団生活の場と個人の生活の場を認識した支援体制をより向上したものにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのレベル、生活習慣、その日の体調、気分などの把握をし、話し合い、個々の生活のリズムに合わせた一日を過ごせるよう援助を行うようにしている。しかし、買物に行きたい等の訴えがあった際は日にちをずらしてもらうこともある。	○	今まで以上に利用者のペースを大切にし、訴えがあれば出来る限りその場で解決していけるような体制作りに努めていきたい。個別での散歩や買物などしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の趣味に応じて、月1回、美容師の来園した際に対応している。また、衣類が汚れたりすれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。	○	職員も身だしなみやおしゃれに配慮した声掛けや話題づくりに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で一緒に行っている。	○	利用者のレベルに合わせて役割を持ってもらうほか、その役割が今まで以上に円滑に出来るよう声掛けや対応の方法など、考えていきたい。また、誕生日には利用者の希望に応じたメニューにし、家族に来てもらってお祝いをしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好にあわせ、内科的に問題なければ好きなものを楽しめるよう心がけている。	○	「自由」を基調にした支援体制を継続していく。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者に応じて早めにトイレへの誘導を行い、失敗の少ないよう支援している。	○	排泄のチェックと状況の見直しをより確実に行えるよう努力する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は行っていないが、毎日午後からの時間は入浴の時間としており、その時間内で希望に応じ行っている。入浴中はその人に合わせたペースで入ってもらっている。	○	今後、夜間入浴も視野に入れ考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の時間帯に何かしら役割を持ってもらい、夜間の安眠につながるよう支援している。昼間でも横になって休憩をとれる体制がある。	○	積極的なリハビリ参加などを通して安眠につながる体調維持に努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活場面を中心に、利用者の好きなこと、得意なことなどの把握に努め、役割を持ってもらえるよう支援している。また、日々楽しく暮らしていけるようレクリエーション、書道や野菜作りなども取り入れ楽しんでもらっている。	○	全員を対象としたレクリエーションのほかに、個々の趣味を生かした活動をもっと取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望により自己管理している利用者がいる。	○	出来る限り自己管理が出来るように支援に努めている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は家族に協力してもらっているほか、時々希望ある利用者と一緒に散歩に出かけている。また、買物なども一緒に行くようにしている。	○	利用者が希望する時間などにより、いつでも外出が出来る体制作りを考えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出をしているほか、家族に協力してもらい外出してもらっている。	○	利用者個別で出かけることが出来る体制が出来ればと考えている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば出来るよう支援している。	○	定期的に生活状況の送付を行い、家族に近況を知らせていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族に気軽に来てもらえるよう声を掛けている。	○	施設行事としての交流会の開催や、行事の案内を通じて家族等の訪問機会を増やすように努めている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員も身体拘束は禁止であることを理解し、援助にあたっている。	○	身体拘束をしないケアに向けた委員会が設立されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も施錠はせず、利用者が外に出る際は必ず職員が同伴するようにしている。職員も身体拘束は禁止であることを理解し、援助にあたっている。居室の鍵を管理できる利用者には鍵を渡している。	○	併設施設、地域を含めた見守り体制の強化。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員が必ずフロアにいるようにし、様子観察を行っているほか、夜間は定期的巡回をし、何か気づけば必ず様子を見に行くようにしている。	○	職員の見守り体制の強化。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各利用者の状態に応じて、居室の持ち込みなど考慮している。	○	季節的なものを配慮して、必要でないものは保管できるようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	薬に関しては職員数人で確認を行うほか、利用者の状態の把握に努め、緊急時のマニュアルなど作成し、職員が見れるよう保管している。	○	現状マニュアルの定期的な見直しと職員への徹底。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルなど作成し、職員が見れるよう保管している。また、緊急時に対しての対処方法を研修や申し送りなどで話している。	○	現状の研修機会等を頻繁に持つよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養と合同で避難訓練、初期消火訓練などを行っており、年1回は消防署と合同で訓練している。	○	緊急時に、職員が冷静に対処できるよう、訓練だけでなく、研修の議題としてあげていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に、施設のハード面でのリスクと、利用者のレベルにおいてのリスクを話しているほか、利用者の状態が変化したときなど、随時リスクについて家族に話している。	○	家族と定期的な話し合いの場を持てるよう努めていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、各利用者の普段の調子を把握し、いつもと違う点などあれば、他職員と話すほか、連絡帳やケース記録など活用し、全職員が情報を共有できるよう努めているとともに、報告、連絡、相談を大切にしている。	○	朝夕の夜勤者との引継ぎ等のミーティングを行っているとともに、看護師を交えたミーティングも行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の役割をケースにはさむなどしており、職員一人ひとりが確認できるようにしている。また、服用時は何度も確認して服用してもらっている。	○	看護師との連携、連絡の強化。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活場面での動きを中心に、何らかの役割を持ってもらうように努めているとともに、食事摂取や水分補給などに気をつけている。野菜を摂取してもらうために小さくしたり柔らかくなるよう調理に工夫している。また、医師との相談もしている。	○	日常の会話の中で利用者から情報を得て、専門家（医師・看護師）に相談できる体制を構築している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではないが、朝晩は必ず歯磨きの声掛けをして実施している。	○	併設施設の訪問歯科を利用できるようになっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確保のため、特養の献立を参考にしている。また、定時の水分補給を行っており、水分をなかなかとってもらえない利用者に対しては回数を多くしている。	○	利用者の嗜好を考え、出来る範囲内でメニューに取り入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策委員会、感染症に関する研修会を実施しているほか、マニュアルを作成しており、時期に応じて対策を行っている。また、出勤時、退出時には必ず手を洗っている。	○	マニュアルの作成、感染症対策委員会にスタッフが参加している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に数回食材の購入に行き、新鮮な食材を使うようにしているほか、賞味期限を確認して材料を使用している。調理用具など保管する場所を決めている。	○	併設施設の栄養士等の助言や協力が常にもらえる体制になっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花など植えている。また、家庭菜園をつくっている。	○	家庭的な雰囲気作りに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をし、季節感を出しているほか、職員と過ごせる時間を持ち、家庭的な雰囲気を出せるよう努力している。	○	生活者である利用者の意見や声を取り入れるよう努めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には畳の部屋もあり一人になれる空間がある。	○	設備的な対応も必要だが、スタッフの配慮や対応に力を入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れたものや写真を持参してもらい、なるべく入居前の部屋の感じに合わせた居室作りが出来るよう努めている。	○	個人の部屋として、自由に使ってもらえる配慮を出来る限り行っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、共有スペースともに、時期に応じ利用者に合わせた気温を作るように努めているほか、換気も定期的に行っており、居室に風が通るよう配慮している。また、生ゴミなどは長時間ホーム内に置かないようにしている。	○	利用者と職員がともに過ごす時間を多く持つことで環境への配慮ができるので、その取り組みを続けていく努力をする。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物には必要な場所に手すりなどがあり、職員も利用者の状態把握をして見守りを行っている中、出来る限り自立した生活が出来るよう配慮している。	○	施設にエレベーターが設置してあるが出来る限り階段を使用できるように努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の理解力に応じて声掛けの仕方や、対応の方法を変えて混乱のないよう援助している。また、不穏状態にならないよう職員が身近にいるようにしている。	○	利用者の自尊心に配慮した対応に努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸（花・家庭菜園）など作っており、利用者とともに活動し楽しんでいる。	○	自然に恵まれている利点を利用して、園芸等に以前より積極的に取り組んでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない 心身上のレベルの低下に伴い、なかなか難しくなっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活場面で利用者のできる範囲内での積極的な参加を促し、利用者が「生活をしている」という実感を感じてもらえるよう努力しています。また、なるべく利用者が自由に、自分らしく生活ができるよう支援しています。